



## 鹿児島県ブロック総会を開催 ブロック長に岩元氏が再任、副ブロック長に上田氏が就任

去る6月26日、鹿児島市において、本会の鹿児島県ブロック（ブロック長は岩元文雄氏）が、会員総会を開催した。この総会は、5月29日の全国ブロック長会議で、ブロック長の任期を本会役員と同一にするため、ブロックごとに会員総会を開催し、改選を行うことを申し合わせたものだ。これに応じ、全国に先駆けて開催された。会員総会では、岩元ブロック長の再任と共に、新たに上田副ブロック長が就任した。

また、本部の山本事務局長からは、情勢報告のほか、今年度ブロックに求める協力業務の具体的内容が示された。これまでの本会の活動は、福祉用具サービス計画の義務化に向け、国など中央レベルの活動が中心だったが、今後は、同計画を適切に作成・実行し、活用される地域の環境づくりが必要となる。ブロックにはその活動の原動力となることが期待されている。本会では、各ブロックが会員総会を円滑に開催できるよう、全面的に協力していく方針だ。

総会開催時点での鹿児島県ブロック長は、株式会社カクイックスウィング代表取締役社長の岩元文雄氏。岩元ブロック長の招集により会員約30名が参加し、次期ブロック長の選任や今後の活動等について議論を深めた。

総会の開催にあたり、東京から本会の山本一志事務局長も参会した。山本事務局長は、平成24年4月の介護保険制度の改正内容について説明したほか、参加者に向けて、本会の本年度の基本方針や、鹿児島県ブロックに期待する活動などを伝えた。

制度の改正内容については、「福祉用具サービス計画書」が義務化されるまでの経緯や、義務化による福祉用具専門相談員の必要性について述べるとともに、特定福祉用具販売の際に提出する申請書に福祉用具サービス計画書を添付することで、理由書の提出が不要になるなどの利点も紹介した。

また、福祉用具サービス計画書が義務化に至るまでの経緯についても説明がなされた。福祉用具の業界団体が福祉用具の計画的なサービスを提供するツールとして「個別援助計画書」を厚生労働省へ提案

した。それが多くの関係者の熱意で認められ、ケアマネジャーとの連携を強化するなどの目的で「福祉用具サービス計画書」として義務付けられたというものだ。参加者からは、「総会参加者の全員が、福祉用具専門相談員として、個々の責任の重さを再認識しました」との声も聞かれた。

総会では、ブロック長・副ブロック長の選任、事務局の設置について議案が提案され、ブロック長には引き続き岩元文雄氏、副ブロック長には新たに上田洋一氏（有限会社リパティ代表取締役）が選任された。事務局は、岩元ブロック長の会社である株式会社カクイックスウィングに置くことが決定した。

総会后、山本事務局長とブロック会員との間での意見交換の時間も設けられた。鹿児島県の福祉用具サービスの状況や、ケアマネジャーからのケアプランの受取状況、契約までの手順について等、様々な意見や質問があがった。会員からは鹿児島県の実態について報告があったほか、山本事務局長からもアドバイスがなされ、参加者は、「非常に有意義な時間を会員が共有できた総会となりました」と満足の様子だった。

鹿児島県ブロックでは、昨年度も「ケアマネジャーと福祉用具専門相談員の合同研修」（厚生労働省・平成23年度老人保健健康増進等事業）、「訪問介護員と福祉用具専門相談員の連携研修」（福祉医療機構・平成23年度社会福祉振興助成事業）を鹿児島市で開催している。関係者からも高い評価を得られており、今後の鹿児島県ブロックの活動にも期待が寄せられるところだ。



▶ 総会の様子